

『11ぴきのネコ』劇中歌と原典の関係

—選曲の問題を考えるために—

坂本 麻実子

『11ぴきのネコ』劇中歌と原典の関係

—選曲の問題を考えるために—

坂本 麻実子

The Relationship between Songs within the Play of “Ju-ippiki no Neko” and the Original Book and Script : For the Purpose of Selecting Songs to Perform

Mamiko SAKAMOTO

摘要

ミュージカル『11ぴきのネコ』（井上ひさし作詞，青島広志作曲）を小学生が学習発表会等で上演する場合，上演時間の制約から発生する選曲の問題について，劇中歌と原典の絵本および台本との対応関係を検証し，原典研究の観点から選曲の指針を示す。

キーワード：11ぴきのネコ，井上ひさし，青島広志，馬場のぼる，ミュージカル

Keywords：Ju-ippiki no Neko, INOUE Hisashi, AOSHIMA Hiroshi, BABA Noboru, musical

1. 『11ぴきのネコ』上演時の選曲について

ミュージカル『11ぴきのネコ』（井上ひさし作詞，青島広志作曲）はお腹を空かせたノラネコたちが旅に出て大きな魚を仕留めるといふ冒険物語で子どもたちに人気があり，小学校音楽科教材としても上演されている⁽¹⁾。『11ぴきのネコ』の原典は，馬場のぼる（1934-2001）の絵本『11ぴきのねこ』（馬場，1967）を井上ひさし（1934-2010）が舞台用に脚色した『十一ぴきのネコ—子どもとその付添いのためのミュージカル—』（2幕。1971年4月テアトル・エコー初演；以下『十一ぴきのネコ』と略す）である。『十一ぴきのネコ』の劇中歌はすべて井上が作詞し，宇野誠一郎（1927-2011）が作曲した。『十一ぴきのネコ』は戯曲集『道元の冒険』（井上，1971）に収録され，のちに『井上ひさし全芝居 その一』（井上，1984）に収録されたが，劇中歌は歌詞のみの掲載で，音楽教育に欠かせない楽譜は未出版である⁽²⁾。その『十一ぴきのネコ』のジュニア版と言えるのが『11ぴきのネコ』である。『11ぴきのネコ』の初演は1972年2月で，当時玉川学園高等部2年生だった青島広志（1955-）が同校演劇部のために『十一ぴきのネコ』の井上の歌詞に曲をつけた。今日では『11ぴきのネコ』は子どものためのミュージカル作品として定着し，楽譜（青島，1985）やDVD（青島，2001）も入手できる。ちなみにタイトルの表記を見ると，馬場の絵本は「11ぴき」の「ねこ」，井上・宇野版は「十一ぴき」の「ネコ」，井上・青島版は「11ぴき」の「ネコ」であり，漢字，ひ

らがな，カタカナで区別されている。

ところで『11ぴきのネコ』の上演方法は音楽も演技も当事者に任せられる部分が多い。作曲者の青島は楽譜に次のように指示している（青島，1985）。

- ① この曲集におさめられているうたは，単独でも，自由に組み合わせても演奏できる。
- ② ただし，原曲どおりの配列によっているので，ナレーションなどを加えながら物語を追っていくのも望ましい。
- ③ かんたんな演出や振付を加えて，視覚化すると効果が増す。
- ④ どの形態の合唱（独唱・重唱）でも演奏できる。児童・女声・男声はこのままで，混声の場合は原則的に上が高声，下が低声だが，曲によって男女をわけたり，曲の一部だけを同声合唱にするのもおもしろい。
- ⑤ ソロなどの指定はすべて任意である。伴奏形態も自由である。
- ⑥ 以上のことはすべて，指導者あるいは演奏にたずさわるすべての人が考えて決めるのが望ましい。

『11ぴきのネコ』を小学生が学習発表会等で上演する場合，早々に「考えて決める」必要があるのは上記の①の選曲についてであろう。すなわち劇中歌をいくつか歌うのか。②以下の音楽や演技に関する問題もすべて選曲してからの話である。実は『11ぴきのネコ』の劇中歌は17曲もある（表1参照）。学習発表会等で小学生が全

表 1. 『11ぴきのネコ』と『十一ぴきのネコ』の劇中歌対照表

『11ぴきのネコ』劇中歌 (青島広志作曲)	『十一ぴきのネコ』劇中歌 (宇野誠一郎作曲)
①にゃあごろソング	①にゃあごろソング
②ノラネコ暮らしの是非についての問答歌	②ノラネコ暮らしの是非についての問答歌
③ネコの大漁唄い込み	③ネコの大漁唄い込み
④お腹が空いたのブルース ※A(合唱)、B(斉唱)の2種類あり	④ <u>お腹が空いたのブルース</u>
⑤オーケストラ・ソング ※旋律はベートーヴェン作曲「歓喜の歌」	⑤「ラララ…ヴァイオリンのパスセージが」
⑥のんだくったマーチ	⑥ <u>のんだくったマーチ</u>
⑦こңどうまれてくるときはのレクイエム	⑦こңどうまれてくるときはのレクイエム
⑧地上最低空前絶後の悪口唄	⑧地上最低空前絶後の悪口唄
⑨十一匹のネコが旅に出た	⑨十一匹のネコが旅に出た
	シェイクスピア全作品
	「島で生まれて十三七つ」
	「戦に行かなくても済むように」
	「男になろう」
⑩なのだソング	⑩ <u>なのだソング</u>
	国境の春 ※岡春夫のヒット曲
	あこがれのハワイ航路 ※岡春夫のヒット曲
⑪雲においつけ	⑪雲においつけ
⑫魚見えたか節	⑫魚見えたか節
⑬ネコの英雄にゃん太郎への讃歌	⑬ネコの英雄にゃん太郎への讃歌
⑭都会は優しい毒薬のロック ⑭青島の表記に従う	⑭都会は毒薬の優しいロック
⑮動物づくしによる軀をきたえようソング	⑮動物づくしによる軀をきたえようソング
⑯魚の子守唄	⑯魚の子守唄
⑰ノラネコ天国ソング	⑰ノラネコ天国ソング

備考：青島（1985）、井上（1971）より作成。『十一ぴきのネコ』の下線は太字タイトルの歌を示す。
歌詞のみ記載の歌は「」内に歌い出しを記す。

曲を歌うのは現実的とは言えず、指導者は上演時間や出演者の歌唱力を考慮して選曲を迫られる。実際、青島はDVDに収録された公演では13曲を選んだが(表4参照)、これでも学習発表会の限られた時間内では多すぎるだろう。ただし、何曲選ぶにせよ出演者の好き嫌いだけで歌を選ぶのは論外で、『11ぴきのネコ』という物語が成立するために必要な歌をはずしてはならない。それには原典である井上の台本『十一ぴきのネコ』、そして馬場の絵本『11ぴきのねこ』の作品研究が欠かせないが、『11ぴきのネコ』が上演される機会が多いわりには原典の研究が進んでいないのは残念である⁽³⁾。そこで、『11ぴきのネコ』の劇中歌とその原典である『十一ぴきのネコ』の劇中歌の対応関係を検証し、さらに『十一ぴきのネコ』の劇中歌とその原典である『11ぴきのねこ』の対応関係も検証して小学生の『11ぴきのネコ』の上演には避けることができない選曲の問題について原典研究から一つの指針を提示したい。

2. 『11ぴきのネコ』劇中歌と『十一ぴきのネコ』劇中歌の対応関係

『11ぴきのネコ』の楽譜(青島,1985)を見ると、青島が曲をつけた井上の歌詞の出典は1971年出版の『十一ぴきのネコ』(井上,1971)である。『十一ぴきのネコ』では井上は劇中歌の記載を3通りに書き分けていた。すなわち、タイトルと歌詞を記載する歌、タイトルと歌詞を記載しタイトルを太字にした歌、歌詞のみを記載する歌である。内容的に見て、太字タイトルの歌は物語の展開に直接かかわる歌である。タイトルと歌詞を記載した歌と歌詞のみ記載した歌は個々のネコの境遇や性格を明らかにする歌である。実は、井上は馬場の『11ぴきのねこ』をまず人形劇に脚色し、次いで舞台用に脚色した。『11ぴきのねこ』ではノラネコたちに雌雄の別はなく、背格好は同じで個性も与えられていないが、井上は人形劇では「主人公のちゃん太郎(筆者注。『11ぴきのねこ』のとらねこたいしょうに該当する)に対抗するちょいとした十一の悪役を作り出し」、舞台版では「ネコの集団を書き分けることに重点を置いた」という(桐原,2001:237)。その結果、『十一ぴきのネコ』のノラネコたちはすべて雄ネコで「ネコの集団を書き分ける」ための一つの方法として歌を与えられた。

表1に示すのは『11ぴきのネコ』劇中歌と原典の『十一ぴきのネコ』劇中歌の対照表である。青島は物語の展開にかかわる太字タイトルの歌(表1では下線をつけた)にはすべて曲をつけ、オープニングの①にゃあごろソングからフィナーレの⑩ノラネコ天国ソングまで全部で16曲ある。一方、ネコの集団を書き分けるための歌には井上が好むシェイクスピア芝居や日本の大衆演劇や歌謡曲を取り入れたり、1960年代の日本の世相を盛り込んだりして井上の独自色が強く出ているが、そのような歌を青島は採用しなかった。唯一の例外が楽器のオノマ

トペを生かした「ラララ…ヴァイオリンのパスセージ」であり、青島は「オーケストラ・ソング」というタイトルをつけて⑤として採用した。ただし、その旋律にはベートーヴェン作曲交響曲第9番第4楽章の「歓喜の歌」を使用した。したがって『11ぴきのネコ』は『十一ぴきのネコ』の歌詞を用いるが、内容的には『11ぴきのねこ』を踏まえてミュージカル化した作品と言える。

なお、『十一ぴきのネコ』の劇中歌のうち「シェイクスピア全作品」は1971年版では太字タイトルの歌ではなかった(井上,1971:163)青島は曲をつけていないが、『井上ひさし全芝居 その一』では太字タイトルの歌になっている(井上,1984:286)。しかし、「シェイクスピア全作品」はにゃん太郎が元はシェイクスピア学者の飼いやネコだったと仲間に明かす歌なので、1971年版の記載の仕方が適切と考える。

3. 『十一ぴきのネコ』劇中歌と『11ぴきのねこ』の対応関係

次に『十一ぴきのネコ』とその原典である『11ぴきのねこ』の対応関係を検討する。実は『11ぴきのねこ』でも表2に示すように「ねんねこさっしゅれ」と「たいりょうぶし」という2つの歌が出てくる。「ねんねこさっしゅれ」は大きな湖に住む大きな魚の愛唱歌で、1回目は大きな魚が歌う。2回目はノラネコたちが歌って大きな魚を眠らせ、生け捕りにする。そしてノラネコたちは帰り道で「たいりょうぶし」を歌い、続けて3回目となる「ねんねこさっしゅれ」を歌う。このときノラネコたちが眠らせる相手は自分以外のネコたちで、夜の闇に乗じてそれぞれのネコが大きな魚を盗み食いをする。朝になると大きな魚は骨だけになっていた。

表2. 馬場のぼる『11ぴきのねこ』の歌

歌う場所	タイトル
湖	①- (1) ねんねこさっしゅれ (1回目)
湖	①- (2) ねんねこさっしゅれ (2回目)
湖	②たいりょうぶし
湖	①- (3) ねんねこさっしゅれ (3回目)

備考：馬場(1967)より作成。歌詞の記載はない。

井上は『11ぴきのねこ』の歌を重視して「ねんねこさっしゅれ」を「魚の子守歌」、「たいりょうぶし」を「魚見えたか節」というタイトルに改めて歌詞を書き下ろし『十一ぴきのネコ』に取り入れた。この2曲にとどまらず、井上が『11ぴきのねこ』のストーリーに合わせて次々と歌を加えた結果が表1に示した太字タイトルの16曲であった。そこで、太字タイトルの16曲は『11ぴきのねこ』のどの部分を歌曲化したのかを確認しておこう。以下、○で囲んだ数字は表1の『11ぴきのネコ』および

『十一ぴきのネコ』の劇中歌の通し番号に対応する。♪印は歌い出し、()内の数字は『11ぴきのねこ』のページを示す。

① じゃあごろソング

♪あっちのほうでじゃあごろ こっちのほうでじゃあごろ

→11ぴきののらねこがいました。(1頁)

『十一ぴきのネコ』のオープニングは会場のあちこちにひそんでいたノラネコたちがニャーニャー鳴きながら舞台(都会のゴミ捨て場という設定)に上がり「じゃあごろソング」を歌う。これは『11ぴきのねこ』の冒頭部分に対応する。

② ノラネコ暮しの是非についての問答歌

♪(にゃん太郎)無理矢理首に鈴をつけられることはない/(10匹)だけどいつもハラペコ!

→11ぴきは、いつもおなかがぺこぺこでした。

(1頁)

ノラネコたちの旅の動機となる「空腹」について、ノラネコ暮しの肯定派のにゃん太郎と否定派の10匹(にゃん次からにゃん十一まで)が歌で応酬する。

③ ネコの大漁唄い込み

♪(にゃん太郎)やさほやさほと力いっぱい引けや/(10匹)エンヤコーラ

→「あっ、さかながおちている。」「さかなださかなだ。」ニャゴニャゴニャゴニャゴ

ノラネコたちが餌をとる。『11ぴきのねこ』ではたまたま地面に落ちていた魚を拾うが、『十一ぴきのネコ』では池の魚を釣る設定に改め、ノラネコたちは魚釣りをしながら歌う。にゃん太郎が音頭をとり、10匹が合いの手を入れる。

④ お腹が空いたのブルース

♪お腹が空いたペコペコだ

→とらねこたいしょうが、ちいさなさかなをこまかくわけました。(4頁)

ノラネコたちの釣果は『11ぴきのねこ』では小さな魚1匹、『十一ぴきのネコ』ではメダカ1匹だった。にゃん太郎が十一等分して食べたものの、ノラネコたちの空腹感がかえって大きくなった。

⑥のんだくったマーチ

♪のんだくったのんだくったのんだくったよ

⑦ こんどうまれてくるときはのレクイエム

♪こんどうまれてくるときはこの雪のように白いペルシャ猫よ

⑧ 地上最低空前絶後の悪口唄

♪おまえらのツラは目は猿まなこ

⑥⑦⑧の3曲は『11ぴきのねこ』には直接対応する部分を見い出せないが、④の歌の内容をふくらませ、ノラネコたちの空腹をさらに強調する。ネコたちは⑥を歌って空腹を紛らわせようと試みるが挫折する。にゃん太郎をのぞく10匹は絶望のあまり⑦を歌って自殺しよう

とするが、にゃん太郎が⑧を歌って10匹を怒らせ、結果的に自殺を思い止まらせた。

さて『11ぴきのねこ』ではじいさんねこが登場して大きな魚の話をする(6頁)。『十一ぴきのネコ』でも⑧の歌が終わるとにゃん作老人が登場する。にゃん作老人も大きな魚の話は歌ではなくせりふで語る。

⑨—(1)と(2)十一匹のネコが旅に出た(1回目, 2回目)

♪十一匹のネコ 十一匹のネコ 十一匹のネコが旅に出た

→11ぴきのねこはでかけました。(9頁)

ノラネコたちはにゃん作老人から聞いた大きな魚を求めて北の湖を目指す。2回歌って舞台は都会から旅へ移ることを示唆する。

⑩—(1)と(2)なのだソング(1回目, 2回目)

♪雄々しくネコは生きるのだ ひとりでネコは生きるのだ

→やまをこえ、のをこえて、どんでんいくと、はるかむこうにみずうみがみえました。(9頁)

⑩は⑨の姉妹曲と言える歌で、ノラネコたちが⑩を歌いながらなおも旅を続ける。『十一ぴきのネコ』では第1幕のフィナーレと第2幕のオープニングの2回歌って長旅を暗示する。

⑪ 雲においつけ

♪雲においつけスーススー

→11ぴきのねこは、いかだをつくりました。ほばしらにはほをはりました。ドラムかんやなわもつみました。そして11ぴきは、みずうみにのりだしたのです。

ノラネコたちはいかだを作り、大きな魚が住む湖を目指す。『十一ぴきのネコ』ではネコたちは大きく息を吸ったり吐いたりしながら風を起こし、いかだを走らせるという演技をしながら歌う。

⑫—(1)魚見えたか節(1回目)

♪(にゃん太郎)魚見えたか 見えたか魚/(見張り2匹)ハア ニャンニモ ニャンニモ(中略)

(漕ぎ手8匹)ニャンコラセのヤッコラサ

魚いるかよ いるかよ魚/ハア…ハア…

→おおきなさかなは、まるで見つかりません。(中略)あるひ、いきなりとびだしたのです。「出たあっ。」(11~12頁)

ノラネコたちはいかだに乗って大きな魚を探す。井上は『11ぴきのねこ』でノラネコたちが帰路に歌っていた「たいりょうぶし」を「魚見えたか節」に改め、往路で歌わせた。「魚見えたか節」は「11ぴきのねこ」の絵(9頁)に基づき、船頭のにゃん太郎が歌い、見張り2匹と漕ぎ手8匹が交替で合いの手を入れていく。合いの手の「ニャンニモ」は「何にも(見えない)」の意味で、やがて「ハア…ハア…」に変わり、ノラネコたちが大きな魚と遭遇して驚く様子をあらわす。

⑬ ネコの英雄にゃん太郎への讃歌

♪格好いいじゃないの にゃん太郎さん

→まるではがちませんでした。(17頁)

ノラネコたちは大きな魚に飛びかかるが、全く相手にされない。井上はにゃん太郎が体当たりを試みるというエピソードを加え、10匹が⑬を歌って勇気をたたえる。

⑭ 都会は毒薬の優しいロック

♪田吾作はいやさ ドン百姓はイモさ スマートに生きてえのさ

→「ざんねん またやられた。」「やっぱり だめだあ。」(23頁)

失敗続きで消沈するノラネコたちの様子をふくらませ、井上は大きな魚を諦めて都会に帰ろうかと思案する歌を作った。

⑮—(1)動物づくしによる軀を鍛えようソング(1回目)

♪からだをきたえよう 強いからだを

→「もっと からだをきたえよう。」(19頁)

ノラネコたちは再び立ち上がり、まずは体力をつけようと体操をする。

井上は⑮の歌にさまざまな動物の真似る動作を取り入れた。

⑯—(1)魚の子守唄(1回目)

♪ねんねこさっしやませ おとなしく

→おおきなさかなは、みずうみのうえにかおをだして、うたをうたっていました。むかしおぼえた“ねんねこさっしやれ”のうたでした。(20頁)

ノラネコたちが見張っていると、大きな魚が大好きな子守唄を歌っていた。井上は『11ぴきのねこ』の「ねんねこさっしやれ」を「魚の子守唄」というタイトルに改め、歌詞を書き下ろした。

⑮—(2)動物づくしによる軀を鍛えようソング(2回目)

♪からだをきたえよう 強いからだを

→「なにかいいさくせんはないか？」(19頁)

ノラネコたちは体操を続けるうちに歌という「最上最良の武器」を使うことを思いつく。

⑯—(2)魚の子守唄(2回目)

♪ねんねこさっしやませ おとなしく

→おおきなさかなはねむっています。11ぴきのねこは、そのまわりをまわりながらうたをうたいました。“ねんねこさっしやれ”のうたでした。(26頁)

ノラネコたちは子守唄を歌って大きな魚を眠らせ、油断させる作戦に出る。

⑰—(2)魚見えたか節(2回目)

♪魚見えたか 見えたか魚／ハア ニャンニモ ニャンニモ (中略)

魚出たかよ 出たかよ魚／はゝむしゃむしゃむしゃ

→おおきなさかなは、いかにひかれていきました。11ぴきのねこは、みんなよだれがでてくるのをがまんしていました。がまんをしながら、みんなで“たいりょうぶし”を、うたいました。それから“ねんねこ

さっしやれ”をうたいました。そして、ちらっちらっとうしろをみました。(32頁)

ついに大きな魚を生け捕りにしたノラネコたちは本当はすぐにでも食べたいのだが、お腹を空かせた朋輩たちにも食べさせよう、それまでは食べないと約束する。大きな魚をなわでぐるぐる巻きにし、筏の後ろにつないで帰途に就く。帰り道、『11ぴきのねこ』ではノラネコたちは「たいりょうぶし」を歌い、続けて「ねんねこさっしやれ」を歌って仲間を油断させ、闇に紛れて盗み食いを働く。一方、『十一ぴきのネコ』では往路で歌った「魚見えたか節」を帰路でも歌い、「魚の子守唄」は歌わない。ただし「魚見えたか節」の合いの手を「ハア ニャンニモ ニャンニモ」から「はゝむしゃむしゃむしゃ」に変化させ、ノラネコたちの盗み食いを暗示する。

⑱ ノラネコ天国ソング

♪ここを野良ネコの国にしよう

『11ぴきのねこ』では骨だけになった大きな魚とため息腹でひっくり返っているノラネコたちを対比させて終わるが、『十一ぴきのネコ』ではノラネコたちが大きな湖に住み着き、ノラネコのユートピアを建設するという設定にしており、⑱を歌ってフィナーレとする。

⑲—(3)十一匹のネコが旅に出た(3回目)

♪歌うべき歌詞の指定なし

井上は『十一ぴきのネコ』のエピローグとしてノラネコ天国の10年後のエピソードを加えた。繁栄を続けていたノラネコ天国に陰りが見え始め、危機感をもったにゃん太郎は繁栄の恩恵に浴している仲間たちに撲殺される。唯一、撲殺に加わらなかったにゃん十一は10年前は希望の歌だった「11匹のネコが旅に出た」を歌いながらノラネコ天国を立ち去る。ただし、どの部分を歌うか、どのくらいの分量を歌うかは役者に任されている。

以上、『十一ぴきのネコ』は都会、旅、湖の3つの場所で物語が展開し、それぞれの場に歌が配分されている。『11ぴきのねこ』では湖の場で2曲歌われるだけであった(表2)。井上はこの2曲に加えて『11ぴきのねこ』から14曲の歌を作り、都会に8曲、旅に4曲、湖に10曲の歌を挿入した。さらに個々のネコたちのエピソードも歌曲化し、都会に1曲、旅に6曲の歌を挿入した。エピソードの歌が旅の場所に多いのは、ノラネコたちが野営時に互いの身の上話をする設定だからである。表3には『十一ぴきのネコ』のすべての劇中歌を演奏順に示すとともに原典である『11ぴきのねこ』との関連の強弱も示した。

4. 1つの歌を2回以上歌わせる手法

表2と表3を見ると『11ぴきのねこ』でも『十一ぴきのネコ』でも物語の核心に触れる歌は3回も歌わせていることに気づく。すなわち『11ぴきのねこ』の「ねんねこさっしやれ」と『十一ぴきのネコ』の「十一匹のネコが旅に出た」である。

『11ぴきのねこ』はノラネコたちの冒険物語であるが、作者の馬場のぼるは井上との対談で「昔お母さんに教わった子守唄なんかをノンビリ歌っている」大きな魚が「何らネコどもに敵対意識を持っていない」のに「突

如襲われて喰われてしまうような現実が、人間の世界にも大いにある」ことを絵本で覚らせるのも大事ではなからうかと言っており、井上は「むしろ魚に焦点を合わせられたわけですね」と応じている⁽⁴⁾。したがって『11

表3. 『十一ぴきのネコ』の劇中歌（演奏順）

場面	歌う場所	タイトルまたは歌い出し	『11 ぴきのねこ』との関連
I-1	都会	①にゃあごろソング	○
I-2	都会	②野良猫暮しの是非についての問答歌	○
I-3	都会	③ネコの大漁唄い込み	○
I-4	都会	④お腹が空いたのブルース	○
I-5	都会	⑤「ラララ…ヴァイオリンのパッセージが」	×
I-5	都会	⑥のんだくったマーチ	×
I-6	都会	⑦こんどうまれてくるときはのレクイエム	×
I-6	都会	⑧地上最低空前絶後の悪口唄	×
I-6	都会	⑨- (1) 十一匹のネコが旅に出た (1回目)	○
I-7	旅	⑨- (2) 十一匹のネコが旅に出た (2回目)	○
I-7	旅	シェイクスピア全作品	×
I-7	旅	「島で生まれて十三七つ」	×
I-7	旅	「戦に行かなくても済むように」	×
I-7	旅	「男になろう」	×
I-7	旅	⑩- (1) なのだソング (1回目)	○
II-1	旅	⑩- (2) なのだソング (2回目)	○
II-2	旅	国境の春	×
II-2	旅	あこがれのハワイ航路	×
II-2	旅	⑪雲に追いつけ	○
II-3	湖	⑫- (1) 魚見えたか節 (1回目)	○
II-4	湖	⑬ネコの英雄にゃん太郎への讃歌	×
II-4	湖	⑭都会は毒薬の優しいロック	×
II-5	湖	⑮- (1) 動物づくしによる軀を鍛えようソング (1回目)	○
II-6	湖	⑯- (1) 魚の子守唄 (1回目)	◎
II-6	湖	⑮- (2) 動物づくしによる軀を鍛えようソング (2回目)	○
II-7	湖	⑯- (2) 魚の子守唄 (2回目)	◎
II-7	湖	⑫- (2) 魚見えたか節 (2回目)	◎
II-8	湖	⑰ノラネコ天国ソング	×
エピローグ	湖	⑨- (3) 十一匹のネコが旅に出た (3回目) ※台本に歌う部分の指定なし	×

備考：井上（1971）より作成。場面欄のローマ数字は幕、アラビア数字は場を示す。○印は『11ぴきのねこ』と関連が認められる歌、◎印は『11ぴきのねこ』でも歌う記述のある歌、×印は『11ぴきのねこ』との関連は薄い歌を示す。

『11ぴきのねこ』で「ねんねこさっしゅれ」の歌のもつ意味は大きく、1回目は大きな魚が慰みに歌う。2回目はノラネコたちが大きな魚を騙し討ちにするために歌う。3回目は食い意地の張ったノラネコたちが仲間を騙すために歌う。こうして大きな魚は自分の愛唱歌によって襲われ、食べられてしまう。「ねんねこさっしゅれ」は1回目よりは2回目、2回目よりは3回目と繰り返すたびに悪用の度を強め、「悪くもないのにやられてしまう」という理不尽な現実を強烈に印象づける。

一方、『十一ぴきのネコ』の作者の井上は、前述の馬場との対談で今や伝説化した戦後日本の経済成長と食べたい一心で行動するノラネコたちの姿が重なると言う。「十一匹のネコが旅に出た」はまさに『十一ぴきのネコ』の主題歌である。1回目と2回目は大きな魚が住む湖を目指して長い旅をするノラネコたちに歌わせた。3回目はかつては仲間だったネコたちに殺されたにゃん太郎を弔ったのち、ノラネコ天国から再び旅に出るにゃん十一が歌う。「11匹のネコが旅に出た」以外にも『十一ぴきのネコ』では「なのだソング」、「魚見えたか節」、「動物づくしによる軀を鍛えようソング」が2回歌われていた。この3曲が2回歌われるのは物語の時間の経過を示すためであり、「十一匹のネコが旅に出た」は物語の主題と結びついている点でより重要である。

また、井上は都会の生活に見切りをつけ、ついにユートピアを建設した11匹のノラネコたちは「周囲となじめないなら、ひとつ同志で力を合わせて自分たちのなじめない新しい場所を作り出そうではないか」という、困難だが雄々しい生き方を提示しているとも言っている(井上, 2011:443)。「十一匹のネコが旅に出た」とネコたちに繰り返し歌わせることで、井上は現実世界で周囲となじめず、苦しみながら生きている者たちに一つの方向性を示唆し、エールを送っているのだろう。

『11ぴきのネコ』の原典『十一ぴきのネコ』、そして『十一ぴきのねこ』の原典『11ぴきのねこ』にはそれぞれの作者が意図して繰り返し使用する歌があった。この点については、劇中歌を初出順に掲載しているだけの『11ぴきのネコ』の楽譜からは情報が得られない。しかし、原典にあたって繰り返し使用される歌の存在を知れば、『11ぴきのネコ』の劇中歌全17曲の中に軽重の差が見えてくる。原典での繰り返し使用という視点を『11ぴきのネコ』の選曲に生かせないだろうか。原典にこめられた作者たちの意図を尊重し、1つの歌を2回以上歌うという選択肢があってもよいのではないかと。

5. 原典研究からみたDVD版『11ぴきのネコ』の選曲について

『11ぴきのネコ』の選曲の具体例としてDVD版『11ぴきのネコ』(青島, 2001)を取り上げよう。選曲にあたり、青島は都会→旅→湖の3つの場面で「ノラネコたちの空腹、旅に出る動機、大きな魚との戦いという状況

が描かれていなければならない」と条件を付けた。さらにミュージカルは物語の筋を追うだけでなく歌や踊りも見所なので「筋そのものからは枝葉の部分と思われても、音楽の見地から数曲加える(とくにははじめと終わりは派手な曲が必要)」とも言う。こうして選曲したのが表4に示した13曲である。表1に示した『11ぴきのネコ』劇中歌全17曲のうち、DVD版はオープニングの①にゃあごろソングとフィナーレの⑱ノラネコ天国ソングを採用する一方で、⑤オーケストラ・ソング、⑧地上最低空前絶後の悪口唄、⑩なのだソング、⑪雲においつけ、の4曲をカットして13曲を選曲した。この13曲は楽譜の掲載順に1回ずつ歌っていく。歌と歌との間は短いセリフを入れ⁽⁵⁾、ストーリーを説明する。なお、作曲者の青島はピアノ伴奏のほか、にゃん作老人を演じている。

DVD版では①にゃあごろソングで登場した都会のノラネコたちの空腹は、②ノラネコ暮しの是非についての問答歌、③ネコの大漁唄い込み(釣りの演技や踊りも見所である)、④お腹が空いたのブルース、⑥のんだくったマーチ、⑦こんど生まれてくるときはのレクイエム(スローテンポのバラード。独唱力を要す)、の4曲で描かれる。オリジナル版の⑤オーケストラ・ソングと⑧地上最低空前絶後の悪口唄の2曲はカットされた。

表4. DVD版『11ぴきのネコ』で選曲された劇中歌(演奏順)

歌う場所	タイトルまたは歌い出し
都会	①にゃあごろソング
都会	②ノラネコ暮しの是非についての問答歌
都会	③ネコの大漁唄い込み
都会	④お腹が空いたのブルース・B ※A(合唱)、B(斉唱)のうちBで歌う
都会	⑥のんだくったマーチ
都会	⑦こんど生まれてくるときはのレクイエム
都会 →旅	⑨十一匹のネコが旅に出た
湖	⑫魚見えたか節
湖	⑬ネコの英雄にゃん太郎への讃歌
湖	⑭都会は毒薬の優しいロック
湖	⑮動物づくしによる軀をきたえようソング
湖	⑯魚の子守唄
湖	⑱ノラネコ天国ソング

備考：青島(2001)より作成。表1『11ぴきのネコ』全17曲のうち⑤オーケストラ・ソング、⑧地上最低空前絶後の悪口唄、⑩なのだソング、⑪雲においつけ、の4曲をのぞく13曲が選曲されている。

旅に出る動機は、⑦の歌の後で登場し、大きな魚の話をするにゃん作老人のセリフで説明される。その後、ノラネコたちは⑨十一匹のネコが旅に出たを歌いながら出発する。舞台から客席において練り歩きながら長旅を表現し、再び舞台上がると湖に到着する。DVD版では旅の場は⑨の歌1曲ですませ、オリジナル版の⑩なのだソングと⑪雲においつけの2曲はカットされた。

大きな魚との戦いは次の6曲で描かれる。ノラネコたちは⑫魚見えたか節で湖に漕ぎ出すと（筏を漕ぐ動作を伴うために船頭のにゃん太郎役には力強いソロが要求される）、大きな魚と遭遇する。⑫の歌が終わると、大きな魚は舞台を横切り、ノラネコたちをなぎ倒す。にゃん太郎は体当たりを試み、10匹は⑬ネコの英雄にゃん太郎への讃歌を歌って応援するが失敗する。ノラネコたちは気弱になり「都会の生活——。いわれてみればあれでなかなか結構な生活でしたねえ。」というセリフを入れて⑭都会は毒薬の優しいロックを歌う（「退廃的な」振付で踊り、最後は舞台中央に集まってポーズを決める）。しかし、⑮動物づくしによる軀を鍛えようソングを歌って仕切り直す（⑭とは逆に力強く体操しながら歌う。前奏には「ラジオ体操第二」を使う）。ノラネコたちは大きな魚には力では負けるので頭を使おうと⑯魚の子守唄を歌っておびきだし、油断させる作戦を立てる。夜になり、ノラネコたちの歌に誘われて大きな魚が姿を現す。ノラネコたちは闇の中で大きな魚を歌であやすふりをしながらしっかりとつかみ、一口、また一口と食べていく。歌い終わると朝が来て、ノラネコたちは大きな魚が骨だけになっているのに気づく。「なーんだ、みんなでたべちゃったんじゃないか」というセリフを入れて笑い合い、大きな湖に住み着くことに決め、フィナーレの⑰ノラネコ天国ソングを歌う。

DVD版『11ぴきのネコ』は、都会と旅の場ではオリジナル版の劇中歌を2曲ずつカットしたが、物語に大きな影響は出ていないと思う。それに対して大きな魚との戦いの場では、オリジナル版の劇中歌を1曲もカットしなかったにもかかわらず、話を急いだような物足りなさが残る。その最も大きな要因は「魚の子守唄」を原典とは異なり1回しか歌わない点にある。そもそも『11ぴきのネコ』自体に「魚の子守唄」を繰り返し歌うという発想がなく、DVD版もそれに倣ってノラネコたちが1回だけ歌う。歌の最中に大きな魚が現れ、ノラネコたちに食べられてしまう。これではなぜノラネコたちが「魚の子守唄」を歌うのか、なぜ大きな魚は「魚の子守唄」に騙されるのかわかりにくい。しかもノラネコたちは「魚の子守唄」を歌いながら大きな魚を食べ尽くしたので、原典の『十一ぴきのネコ』や『11ぴきのねこ』のように都会に戻る理由がなくなった。したがって『11ぴきのネコ』では湖からの帰り道、ノラネコたちが歌で仲間を騙して盗み食いするの部分が欠落しており、みんなが大きな魚を食べたとわかれば早々に「ここ（＝湖）

に住みついちゃうわい？」「賛成！」というセリフを入れ、「ノラネコ天国ソング」を歌って幕となる。これは『11ぴきのねこ』や『十一ぴきのネコ』と比較すると、いかにも唐突なフィナーレである。原典研究の立場からは「魚の子守唄」は1番だけでも2回は歌ってほしい。1回目は大きな魚が歌い、2回目はノラネコたちが歌って『十一ぴきのネコ』は大きな魚とノラネコたちの2つの価値観が衝突した物語であることを示唆するべきであろう。さらにフィナーレも「ノラネコ天国ソング」に続けて主題歌の「十一匹のネコが旅に出た」をワンフレーズだけでも付け加えればより充実するのではないだろうか。1つの歌を繰り返し歌うことは時間の無駄使いではない。繰り返すのは単なるコピー作業ではなく、表現の密度を高めるためなのである。

6. 『11ぴきのネコ』小学校低・中学年向け台本案

最後に『11ぴきのネコ』の選曲のための一つの指針として小学校の学習発表会等での上演を想定した台本案を提示する。筆者は2012年度前期金沢大学大学院教育学研究科において非常勤講師として担当した「音楽科教育内容研究特論E」の演習で『11ぴきのネコ』の原典研究とその成果に基づいた台本作りを指導した⁽⁶⁾。対象は小学校低・中学年の児童、上演時間は20分と設定し、一幕ものとした。配役は11匹のノラネコ（児童数によって交替可）、にゃん作老人、大きな魚にナレーターを加えた。選曲にあたっては、原典の『11ぴきのねこ』や『十一ぴきのネコ』を踏まえて繰り返し使用する歌を含むこととし、また『十一ぴきのネコ』を作曲した青島の指示に従って歌と歌の間にはセリフを入れ、物語と音楽の両方を楽しめる作品になるように留意した。「音楽科教育内容研究特論E」での成果に基づき、最終的に筆者が修正を加えて作成した『11ぴきのネコ』の台本案が表5である。

表5の台本案では、表1に示した『11ぴきのネコ』全17曲のうち、②ノラネコ暮しの是非についての問答歌、⑨十一匹のネコが旅に出た、⑫魚見えたか節、⑯魚の子守唄、の4曲を厳選した。この4曲はDVD版でも選曲されており、『11ぴきのネコ』という物語が成立するためには必要不可欠な歌と言える。②は物語の核となる「空腹」が具体的に歌われ、掛け合いという歌唱形式も面白いので選んだ。⑨は物語の主題歌として選び、歌うのはノラネコたちが旅するときとカーテンコールの2回である。⑫は湖への旅の往路と帰路を表現するのに最適な歌で2回歌う。往路では日中に筏を漕ぐ演技をしながら歌い、帰路では闇夜に大きな魚を盗み食いする演技をしながら歌って変化をつける。⑯は物語のクライマックスを作る歌として選び2回歌う。台本案では唯一のスローテンポの歌であり最も歌唱力が求められ、1回目は大きな魚のソロで朗々と歌い、2回目はノラネコたちの

『11ぴきのネコ』劇中歌と原典の関係

表5. 『11ぴきのネコ』小学校低・中学年用台本案（上演時間：20分）

歌またはセリフ	歌またはセリフの説明
ネコの鳴き声	オープニングの①にゃあごろソングに代えて、会場のあちこちに隠れていたノラネコたちがニャーニャー鳴きながら舞台上がり、舞台の上でもさまざまな鳴き声や動作をする。
セリフ	ノラネコたち。「お腹が空いたよー」「何か食べたいよー」などと口々に言う。 ナレーター「11匹ノラネコがいました。いつもお腹がペコペコでした。」
歌1	②ノラネコ暮しの是非についての問答歌
セリフ	にゃん作老人登場。「ネコたちや、そんなにハラペコなのか。大きな魚が食べたいか。北の湖に大きな魚が住んでいる。勇気があるなら行ってごらん。ゴホッゴホッゴホッ」 ネコたち「そんな大きな魚ならお腹いっぱい食べられるぞ。みんなで力を合わせればつかまえられるぞ、ぜったいに！ニャゴニャゴニャゴ」
歌2-(1)	⑨-(1) 十一匹のネコが旅に出た（1回目） ※歌いながら練り歩き、都会から旅への移行をあらわす。
セリフ	にゃん太郎「あつ、あそこに湖が見えるぞ。」 ネコたち「ひろいなあ。おおきいぞ。海みたいだ。」 ナレーター「11匹のネコたちはいかだを作りました。そしていかだにのって大きな魚を探しにいきました。」
歌3-(1)	⑫-(1) 魚見えたか節（1回目） ※いかだを漕ぐ動作を伴って歌う。
セリフ	にゃん太郎「でたあつ。大きな魚だ。」大きな魚が登場。 ネコたち「それっ、とびかかれ。ニャゴニャゴニャゴ。ゴロニャーン」 ネコたち、大きな魚に次々と倒される。「ざんねん。やられたー。」 ナレーター「ネコたちは大きな魚を捕まえようとしたのですが、まるで歯がたちませんでした。」
歌4-(1)	⑬-(1) 魚の子守唄（1回目）※大きな魚が歌う。
セリフ	ナレーター「夜になりました。」（うす暗くなる） にゃん太郎「おやっ、大きな魚が眠っているぞ。敵は油断している！」
歌4-(2)	⑬-(2) 魚の子守唄（2回目）※眠っている大きな魚の周りをまわりながらネコたちが歌う。大きな魚はいびきをかき始める。
セリフ	にゃん太郎「いまだ！かかれーっ」ネコたち「ギャオー、ゴロニャーン」 ナレーター「ネコたちはどっととびかかりました。」大きな魚「ウギャーア」 にゃん太郎「諸君！われわれはついに大きな魚をつかまえたぞ。」10匹「おー！」 にゃん太郎「早く帰ってみんなに見せてやろう。」10匹「さんせーい。」
歌3-(2)	⑬-(2) 魚見えたか節（2回目）※帰路、闇の中でネコたちは大きな魚を食べる動作をしながら歌う。1番は遠慮がちに、2番は開き直って勢いよく歌う。
セリフ	ナレーター「朝になりました。」（明るくなる。大きな魚は骨だけになっている。） ネコたち、全員が大きな腹を見せてひっくり返っており、ゲップを繰り返しながら眠る。 にゃん作老人登場。「ネコたちや。みんなで力を合わせれば何でもできるのじゃ。おや、魚は骨だけになってしまったのう。やれやれ…」（幕が下りる。）
歌2-(2)	⑨-(2) 十一匹のネコが旅に出た（2回目）※カーテンコール。出演者全員が舞台上に立って歌い、観客にこたえる。歌の途中から出演者は少しずつ退場していき、最後ににゃん太郎が退場する。ただし歌はにゃん太郎が退場を完了するまで続ける。

備考：2012年度前期金沢大学大学院教育学研究科「音楽科教育内容研究特論E」（坂本麻実子担当）での成果に基づき、最終的に坂本が修正を加えて作成。表1『11ぴきのネコ』全17曲のうち②ノラネコ暮しの是非についての問答歌、⑨十一匹のネコが旅に出た（2回歌う）、⑫魚見えたか節（2回歌う）、⑬魚の子守唄（2回歌う）、の4曲を選曲した。

斉唱で優しくあやすように歌う。

なお、青島は賑やかなオープニングとフィナーレを求めているが、台本案では上演時間が短いことからオープニングは①にゃあごろソングを歌うのではなく、ノラネコ役の児童たちがネコの鳴き声を真似ながら舞台上に登場する形にした。フィナーレも上演時間が短いことから⑩ノラネコ天国ソングを使わず、2回目となる⑨十一匹のネコが旅に出たを歌い、カーテンコールに使用した。

台本案では幕切れが『11ぴきのネコ』とは異なる。『11ぴきのネコ』の幕切れは『十一ぴきのネコ』と同様にノラネコたちが湖に住み着いてユートピアを建設するが、これは井上のアイデアである。『11ぴきのねこ』は「ああ！のらねこたち！たべちゃった！11ぴき みんな みんな たぬきのおなか。」(馬場,1967:39)という文で結んでおり、大きな魚との戦いに勝ったノラネコたちも所詮は空腹に負けてしまったという落ちがついている。そこで、台本案では上演時間の制約から⑩ノラネコ天国ソングをカットしたのに合わせ、オリジナルの幕切れを創作した。すなわち、にゃん作老人を再登場させ、大きな魚を食べ尽くして眠っているノラネコたちに向かって、「ネコたちや。みんなで力を合わせれば何でもできるのじゃ。おや、魚は骨だけになってしまったのう。やれやれ…」というセリフを語らせ、『11ぴきのねこ』がもつ大らかな笑いの世界を舞台上に再現してみた。そして一度幕を下ろしたのち、前述のようにカーテンコールで出演者全員が⑨十一匹のネコが旅に出たを歌う。

参考文献

- 青島広志 (1985) 『11ぴきのネコ 合唱版』(楽譜) 東京：音楽之友社
- 青島広志 (2001) 『11ぴきのネコ』(DVD) Victor VIBS-132
- 井上ひさし (1971) 『十一ぴきのネコ—子どもとその付添いのためのミュージカル—』(『道元の冒険』所収) 東京：新潮社
- 井上ひさし (1984) 『十一ぴきのネコ—子どもとその付添いのためのミュージカル—』(『井上ひさし全芝居 その一』所収) 東京：新潮社
- 井上ひさし (2011) 「はみだした主人公たち」(『馬場のぼる こどもまんが集』解説 (初出は1970) 東京：こぐま社
- 井上ひさし (2012) 『十一ぴきのネコ』(CD) 東京：こまつ座、ホリプロ
- 桐原良光 (2001) 『井上ひさし伝』東京：白水社
- 小森陽一 (2012) 「余白のある幕切れ 劇評井上ひさし『十一ぴきのネコ』」『すばる』34(5), 5月, 236-243頁
- 馬場のぼる (1967) 『11ぴきのねこ』東京：こぐま社

注

- (1) 筆者は2006年6月22日、富山市立堀川小学校第77回教育研究実践発表会において2年生による『11ぴきのネコ』上演の助言指導を行った。
- (2) 最近になって『十一ぴきのネコ』の劇中歌は2012年1月こまつ座&ホリプロ公演のライブ録音でCD化され(井上, 2012), 音源だけは入手できるようになった。
- (3) 『十一ぴきのネコ』についても劇評はあるが(小森, 2012), 『十一ぴきのネコ』からの原典研究は進んでいない。
- (4) 1971年4月『十一ぴきのネコ』初演時の対談。『十一ぴきのネコ』2012年1月こまつ座&ホリプロ公演パンフレット所収。
- (5) 青島はDVD版『11ぴきのネコ』に添付された台本・楽譜集の中で「曲間はすべてセリフでつなぐのが良く、そのセリフは(中略)あらすじから作り出せるであろう」(2頁)と述べている。
- (6) 2012年度前期「音楽科教科内容研究特論E」の履修者は連桃季恵(修士1年), 村田敦美(同), 黒川たまみ(科目等履修生)である。

(2012年8月31日受付)

(2012年10月16日受理)